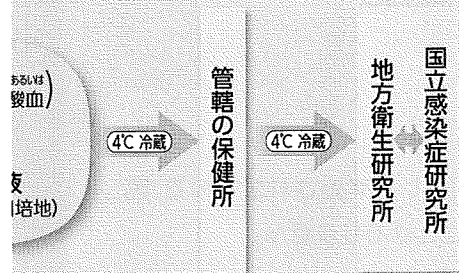


国立感染症研究所では、
しています。

ネットワークに参画し、2008年6月に全国の地方衛生研究所と国立感染症研究所は、麻しん・風しんレファレンスセンターを設置して、PCRと抗体検査による検査診断体制を整備しており、検査ならびに分析のための検体は、保健所を通じて地方衛生研究所(または国立感染症研究所)へ送付される経路での受け入れ体制を整備しています。



注意

※6~10日にピークとなり28病日まで検出可能
 照 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-cj.html>
 的IgG抗体の陽転あるいは有意上昇
 麻しんウイルスゲノム検出(RT-PCR法、リアル

麻しんウイルス分離培養

の3点です。
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-cj.html>
 んであっても麻しん特異的IgM抗体が陰性の

性になります
 ※突発性発疹やパルボウイルスB19感染症、テ
 麻しん特異的IgG抗体は交差反応によって弱

昇せず、麻しん特異的IgG抗体の有意上昇や麻疹ウイ
 陰性場合があります
 出できる場合があります、麻しん特異的IgG抗体は急性期

った場合、麻しんと臨床診断した場合は、総合的
 ます。地方衛生研究所で遺伝子型の分析がさ
 あります。

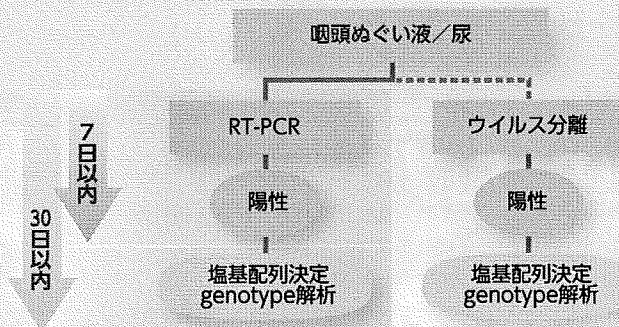
「麻しん」と臨床診断した場合は、
検査診断にご協力をお願いいたします。

各医療機関におかれましては、麻しんを疑った場合、麻しんと臨床診断した場合は、民間の検査機関等での麻しん特異的IgM抗体、麻しん特異的IgG抗体の測定(健康保険適用有り)とともに、本検査診断体制をご活用いただきたく、管轄の保健所を通じて、お近くの地方衛生研究

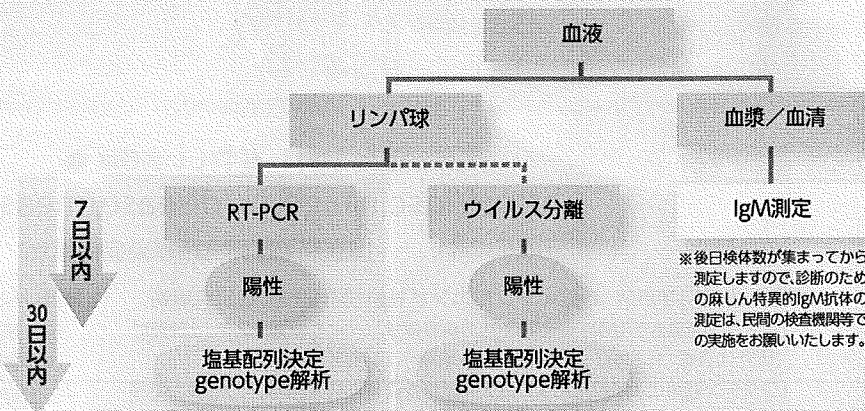
所に、①血液(EDTA血あるいはクエン酸血)、②尿、③咽頭ぬぐい液(ウイルス搬送用培地)のうち2点以上(できれば3点セット)を、Q&Aに記載した方法でお届けくださいますよう、ご協力お願い申し上げます。

- ※ ①血液は、全血で1~2mlあれば検討可能ですが、血算検査後のEDTA血の残りがあれば、それでも可能です。
- ※ ②尿は、培養用の滅菌スピッツに10~20ml程度入れてください。
- ※ ③咽頭ぬぐい液は、滅菌綿棒で咽頭を十分にぬぐった後、乾燥させずにウイルス搬送用培地に十分攪拌して送っていただくと検出効率が高まります。ウイルス搬送用培地については最寄りの保健所にお問い合わせください。
- ※ いずれの検体も、採取後すぐの検討が最も検出効率が高いですが、4°Cで保存されていれば採取後2~3日以内なら検討可能です。

3 麻しん検査診断フローチャート(咽頭ぬぐい液/尿)



4 麻しん検査診断フローチャート(血液)



■ (駒瀬ら:病原微生物検出情報. 30(2):45-47, 2009参照 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/30/348/dj3488.html>)

Q&A

Q1 どこに問い合わせたらいいのでしょうか？

- ◆ 2008年1月1日から麻疹と診断した場合は、感染症法に基づいてすべての医療機関に、7日以内に（迅速な対応に資するため可能な限り24時間以内に）最寄りの保健所への届出が義務づけられました。
- ◆ 検査ならびに分析については、保健所が実施する積極的疫学調査の一環として行われることとなりますので、保健所を通じてお近くの地方衛生研究所に依頼することとなります。
- ◆ お近くの地方衛生研究所で実施が困難な場合は、各地区に設置されたレファレンスセンターで対応します。レファレンスセンターは下記のとおりです。レファレンスセンターで実施が困難な場合は、国立感染症研究所で対応します。
- ◆ 必ず上記3か所のいずれかで対応ができるよう、受け入れ体制を整備していますので、詳しくは最寄りの保健所にお問い合わせください。

Q2 依頼方法はどのようにすればよいのでしょうか？

- ◆ 最寄りの保健所を通じて、お近くの地方衛生研究所、麻疹・風しんレファレンスセンター、国立感染症研究所のいずれかに依頼することになります。方法は保健所にお問い合わせください。

Q3 検査ならびに分析結果の報告はどうなりますか？

- ◆ 地方衛生研究所等から保健所に結果が報告され、保健所から医療機関に報告されます。地方衛生研究所等から保健所と医療機関に同時に報告される場合もあります。

Q4 検査費用はどうなりますか？

- ◆ 積極的疫学調査の一環として実施されますので、医療機関に費用がかかることはありません。

地区	レファレンスセンター
北海道	北海道立衛生研究所 微生物部
東北	山形県衛生研究所 微生物部
関東(神奈川を除く)	千葉県衛生研究所 ウイルス研究室
神奈川・甲・信・静	横浜市衛生研究所
東海	愛知県衛生研究所
北陸	石川県保健環境センター 健康・食品安全科学部ウイルスG
近畿	大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課
中国・四国	岡山県環境保健センター
九州	福岡県保健環境研究所 保健科学部
沖縄	沖縄県衛生環境研究所 衛生科学班

ご不明な点は、
国立感染症研究所
感染症情報センター第三室(予防接種室)
03-5285-1111(代)(内線2536,2562)
 までお問い合わせください。

● 詳しい情報は ●

<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>

国立感染症研究所感染症情報センター

■ 厚生労働科学研究 新型インフルエンザ等新興再興感染症研究事業
 「ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討」
 (研究代表者:清水博之、研究分担者:多屋馨子、駒瀬勝啓)
 「ワクチン戦略による麻疹および先天性風疹症候群の排除、およびワクチンで予防可能疾患の疫学並びにワクチンの有用性に関する基礎的臨床的研究」
 (研究代表者:岡部信彦、研究分担者:多屋馨子)

■ 麻疹対策技術支援チーム
 国立感染症研究所 感染症情報センター
 岡部信彦、神谷 元、木村博一、島田智恵、菅原民枝、砂川富正、
 多田有希、多屋馨子、安井良則、八幡裕一郎、山下和予、山本久美
 国立感染症研究所FETP
 国立感染症研究所ウイルス第三部 駒瀬勝啓、竹田 誠
 厚生労働省、文部科学省

